



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1942, 22(257): 378-381

ISSUE DATE:

1942-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168456>

RIGHT:

観測部月報

Monthly Report, Observing Section, O. A. A.

★

東亞天文協會

★遊星面課の發展 PLANETS

伊達遊星面課長は、山本會長、木邊部長等と協議の上、今般、遊星面課を充實強化する意味で、三班に之れを分ち、次ぎの如く、各班の班長も定められることになった：

火星班（班長 伊達英太郎氏）

木星土星班（〃 佐伯 恒夫氏）

水星金星班（〃 青木 章氏）

近年、遊星面課の中では、火星面の研究が非常に盛んに行はれ、伊達課長始め幾多の専門家が出來たが、之れに反して木土水金の四遊星が甚だ振はないきらひがあつたのを、此の改組によつて今後の活躍が期待されることになつたわけである。

★太陽課 SUN

幹事 大石辰次 (T. Oishi, Secretary)

追加報告. 蔡章猷氏、観測日數20日、相對數平均21.3. 観測地が離れてゐると曰ひながら同氏の追加報告の止むないのは遺憾である。

観測概況. 本月は稀有な晴天と観測者の多數と相俟つて良好な結果を得た。天候不良の30日も、臺北、大阪、福岡、石川縣で見事に之を切り抜けて居る。保積、蔡兩氏の熱心さは良天氣に更に拍車を加へた。

黒點狀況. 19日には蔡氏の捕捉した一群があつて無黒點日は終に無かつた。中旬前半に北15度に一群が隱顯したのが最も高かつた。23日中央部南8度に突發した一群が相當な活動を見せて29日には西沒した。

緯度 北半球 7 個, 平均 9° } 蔡氏観測.
南半球 1 個, 平均 8° }

課員消息. 蔡氏は結膜炎を冒して観測中です。岩城氏は入團の爲休測。松下氏は病氣の爲靜養中です。前橋氏は入學に依つて休測。加藤氏は轉勤の結果中絶するやも知れず。

雜報. 一月より連續報告者及び日數の中間報告をする。七高天文班(137), 杏掛(72), 保積(207), 木邊(140), 大石(164), 坂上(53), 竹内(73), 蔡(140), 高杉(162), 金田(167)。

太陽黑點相對數報告 (1942年八月) Sun-spot Relative Nos., August, 1942.

觀測者 Obs. (觀測地)	蔡章猷 Ss (臺北市)	七高天文部 Su (鹿兒島市)	坂上繁雄 Tr (熊本市)	津留峰雄 M.N. (福岡市)	西山源一 G.H. (大阪市)	正田利夫 No (大阪市)	西尾觀測班 Qs (京都市)	箕井泰雄 Kb (滋賀縣)	木邊成磨 Qt (名古屋市)	加藤裕成 Tu (名古屋市)	竹內潤 Kd (石川縣)	金田伊三吉 Oi (靜岡縣)	大石辰次 Kk (長野縣)	沓掛七二 Hz (東京市)	保積善太郎 Ti (東京市)	高杉重春 T.N. (東京市)	西卷辰雄 Yy (東京市)	山田勇次 Yy (東京市)	觀測個數 No. of Obs.
口徑 mm	55	135	42	122	32	105	45	75	75	32	55	55	102	75	55	75	75	75	十九名中
倍率 ×	64	71	64	48	45	75	53	60	40	50	64	64	75	64	64	46	80		
方法	P	P	P	P	D	P	DP	D	P	D	PD	D	PD	D	Ph	DP	P	D	
1	27	M	37	22	M	M	19	13	23	28		12	36	25	27	15	36	12	14
2	13	M	25	M	M	11	13	18	12	15		16	15	M	16	13	C	11	
3	14	M	25	M	M	11	13	19	14	14	17	R	11	14	13	M	17	M	
4	28	29	C	M	M	12	23	32	26	13		R	28	C	29	M	32	C	
5	27	M	C	M	12	C	27	C	24	29		26	C	C	26	27	32	C	
6	26	M	C	R	12	R	R	34	23	R		25	R	C	24		C	6	
7	25	M	R	R	23	24	25	49	23	12		26	13	C	25	M	22	C	
8	26	R	C	C	26	25	25	48	27	M		27	29	C	27	24	35	C	
9	R	C	27	M	24	25	28	55	24	28	14	27	C	C	31	23		26	
10	R	19	24	M	12	12	M	M	15	14		15	16	C	16	M		M	
11	13	18	M	C	0	12	13	19	M	14	12	C	15	M	13	11	21	M	
12	M	0	M	M	0	11	0	C	M	12	12	R	0	12	0	0		M	
13	11	0	M	M	11	11	12	22	M	12	11	11	C	12	11	11		M	
14	11	C	M	M	11	11	11	22	M	11	11	11	11	11	11	11	12	M	
15	11	C	M	M	0	11	M	36	M	M	11	11	11	C	11	11	11	M	
16	23	C	M	R	R	11	M	34	R	M		11	35	C	36	11	11	M	
17	11	C	M	R	R	11	11	62	R	M		R	11	C	25	12		M	
18	11	11	M	M	11	11	11	95	11	M		12	14	C	R	R		C	
19	11	0	M	0	0	0	0	M	0	0		0	C	C	0	R		C	
20	11	11	12	M	11	11	11	C	0	11	0	11	C	11	11	11	12	11	
21	25	28	M	M	11	25	25	56	23	27	12	25	29	26	27	23	33	23	
22	36	35	M	M	22	35	12	58	33	35	36	35	37	C	36	35	18	35	
23	26	M	M	M	24	24	M	38	24	49	25	30	28	M	M	35	26	33	
24	31	M	M	M	38	28	M	69	25	40	42	35	49	40	33	27	39	M	
25	31	37	M	M	39	32	35	C	27	34	37	31	32	40	34	31	43	30	
26	M	59	M	R	R	31	M	101	R	M		R	47	43	48	45		M	
27	51	R	M	R	R	38	M	C	24	M	49	R	R	C	54	44	58	M	
28	38	42	M	M	56	R	R	R	R	M	50	33	37	C	39	36		M	
29	36	42	M	R	R	39	26	C	R	M	26	38	43	C	38	36	48	M	
30	23	M	M	M	33	M	M	87	C	M		26	R	C	R	R		M	
31	24	C	M	M	R	M	22	67	11	M		C	23	R	23	22		M	
日數 Days	27	14	6	2	21	25	21	22	19	19	9	9	23	22	10	29	23	18	6
平均 Mean	23	24			18	19	17	47	20	21			22	25	23	25	22	28	10.5

略符號については第246號を見よ。For the abbreviations, see No. 246.

★流星課 METEORS (131) 課長 小槇孝二郎 (Koziro Komaki, President)

十一月は一年の中で、八月七月に次いで、流星の多い月である。15日～18日頃の獅子座流星群は、極大期をすぎて十年にもなり、流星数はづつと減じてゐて、あまり期待は出来ない。しかし、今年は上弦の月の直後にあたるので、夕方2時以後になれば、月光の妨害なく、観測出来る。

十月末より此の月に亘つて、火球を含む流星群として知られてゐる羊、牛座流星群は、東京天文臺の古畑正秋氏の研究によつて、エンケ彗星と關聯してゐることが提示された。(天文月報三十五卷9號)輻射點の位置並びに其の移動や分布、流星數の多少について、大いに注意すべきである。本月中の主な流星群の輻射點は次の通りである。

期 間	極大日	輻射點		附近の星	備 考
		α	δ		
十月下旬—十一月上旬		43°	+22°	羊41	緩、輝 (エンケ)
十一月上旬—十一月中旬		58	+9	牛 λ	緩、輝 (エンケ)
十一月5日—20日	16~17日	150	+22	獅子 γ	速、痕、1866I彗星に關聯
十一月17日—25日		25	+43	アンドロ メダ γ	甚緩、ピーラ彗星と關聯
十一月20日—23日		63	+22	牛 κ	緩、輝
十一月16日—十二月8日		155	+39	大熊 μ	速、痕

× × × × ×

八月中の観測が大體出揃つたので、今回は其の概略を掲げる。新人の活躍が目立つ。同時観測の結果は豫期した通りには得られなかつたが、相當の成績は擧げ得たと思ふ。ペルセウス流星の出現状態は例年並のものと見て差支なからう。其他では、カシオペア座に輻射點を有する流星が若干見られた。(Results in August are:)

下表の観測者、観測地及び略符を示す。()内は假符號である。

觀測者	略符	觀測地	觀測者	略符	觀測地
小槇孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	松浦 千秋	(MT)	大 阪 市 *
川人 武正	Kw	香川縣笠田	寺尾 正三	(TR)	大阪府下矢田 *
福永 嘉彦	Fn	徳 島 市	中谷 晃	(NT)	大 阪 市 *
比企 能夫	Hc	兵庫縣西宮市	小林 博	(KB)	大 阪 市 *
山田 義美	(YD)	和歌山縣海南市	今堀 昭三	(IH)	大 阪 市 *
前橋榮太郎	Me	大 阪 市	松本 久義	(MH)	大 阪 市 *
小山千萬樹	(KY)	東 京 市	岡 泰造	(OK)	大 阪 市 *
			吉野 昭三	(YN)	大 阪 市 *

* 明星商業観測班

観測の概略 Daily Summary of Observations

(P=Perseid)

月 日 Date	観測者 Obs.	開 始 Begins	終 了 Ends	時間数 Period	観測方向 Direction of Watch	流星数 記録 Rec'd	流星数 不記録 Seen	F	備 考 Remarks
八月									
12-13	Ko	h m 21 34	h m 22 34	m 60	Cas	12	4	0.8	P 6
12-13	"	2 43	3 13	30	Aur	7	7	0.5	P 9
13-14	"	1 31	2 51	80	Aur, Per	27	19	0.9	P25
11-12	Kw	1 30	3 0	90	Per	12		0.9	P10
12-13	"	1 30	3 0	90	Per	6	5	0.7	P 5<
14-15	"	1 0	2 0	60		1	1	0.4	P 1<
12-13	Fn	1 0	3 0	120	Per	62	42	0.9	
11-12	Hc	1 0	3 0	120	Per, Aur	21	11	0.6	P10?
14-15	"	1 0	3 0	120	Per, Aur	10	5	0.3	P 6?
11-12 (YD)		1 38	3 10	92	Cas, Per	36	2	1.0	
14-15	"	21 0	22 0	60	Cyg, Aql	11	0	1.0	
8-9	Me	1 50	2 20	30	Per	4	0	0.1	P 1
10-11	"	1 40	3 40	120	Per, And	34	15	0.8	P16
11-12	"	1 0	4 0	180	Peg, Tau	88	29	0.9	
12-13	"	0 45	3 0	135	Peg	60	7	0.4	P28
14-15	"	1 30	3 0	90	Peg	39	15	0.8	
15-16	"	1 30	2 20	60	Peg	19	4	0.8	
20-21	"	1 0	3 0	120	Peg	25	9	0.8	
13-14 (KY)		0 25	2 35	120	Per, Cas	38	10	0.9	
11-12 (MT)		1 0	4 0	180	Per	61			
14-15	"	1 0	3 0	120	Aqr, Per	37	5		
12-13	"	1 0	3 0	120	Per, PsA	30	6		
20-21	"	2 0	3 0	60	Per, And	11	3		
10-11 (TR)		1 0	2 0	60	And, Ari	23	4	1.0	
20-21	"	2 25	4 0	85	Per	16	6	0.8	
21-22	"	2 45	3 45	60	Per, And	11	1	1.0	
4-5 (NT)		2 30	4 30	120	N	9	3		
12-13 (KB)		0 45	3 0	135	Peg	45	5	0.4	
20-21 (IH)		0 0	1 0	60	Lyr	8	1	0.8	
22-23 (MH)		2 0	3 20	80	S	16	2		
12-13 (OK)		0 45	2 0	75	Peg	47	10	0.4	
18-19 (YN)		2 40	4 9	89	Cet, Aqr	8	3	0.7	

★彗星課 本年発見された彗星は下の通りである。

1942a (新彗星) ベルナスコニ (Bernasconi) 氏 (1942年二月11日) 発見。

1942b (新彗星) オテルマ (Oterma) 氏 (1942年二月12日) 発見。

1942c (グリグ・シェレルプ星) 神田茂氏 (五月9日), 本田實氏 (六月9日) 発見。